

# 2022年度 出張授業一覧



- 別紙「出張授業申込書」に必要事項をご記入の上、FAXもしくはE-Mailにてお申し込みください。
- ご希望日の1ヵ月前までにお申し込みください。当方からご担当者様へご連絡いたします。
- 教員のスケジュール等の都合でお引き受けできない場合もございますので予めご了承ください。
- 派遣教員に対する謝礼・交通費（香川県内および近県）は必要ございません。
- 授業一覧にないものでも、ご要望があればご相談ください。

## 2022年度 出張授業一覧

No	テーマ	内容	教員
1	衣食住の地理－イランと日本の比較から－	和辻哲郎も『風土』で述べるように、西アジア地域は、東アジアと異なり極めて過酷な自然環境の大地です。この地域の人々の伝統的な生活や文化を自然環境（地域資源）との関係から見ていきたいと思います。「所変われば品変わる」と申しますが、自然環境の違いが衣食住にどのような違いをもたらしたのか、その点を実際に理解してもらえればと思います。	准教授 吉田 雄介 (学術教員)
2	ペルシア絨毯からみるグローバル・ナショナル・ローカルの結びつき	ペルシア絨毯は、イランの地域資源が生み出したこの地域に独特の産品です。そして、いまだに人間が器用な指先で色糸を一本一本結ぶことで織り上げられます。ただし、その生産が飛躍的に拡大したのは、19世紀の末にヨーロッパ向けの輸出生産が拡大したからです。そこで、このペルシア絨毯から、グローバル・ナショナル・ローカルの関係を読み解いてみたいと思います。	准教授 吉田 雄介 (学術教員)
3	京阪神の地誌	京阪神、つまり京都・大阪・神戸地域の全体像を、都市や人口など地理的な側面から把握したいと思います。図表を利用してわかりやすく京阪神地域を考えていきたいと思います。	准教授 吉田 雄介 (学術教員)
4	漫才はどうやって生まれたか？	誰でも一度はテレビで漫才を見たことがあるでしょう。二人組が登場し、一方がとぼけたことを言い、他方がつつこむという「ボケとツッコミ」という役割分担もすっかりおなじみのものになってしまいました。しかし、これは昭和初期には「最新の芸能」だったのです。どんなふうに漫才は生まれたかを見ながら「面白い」と社会についてお話しします。	准教授 田保 顕 (学術教員)
5	ゲストハウスってどんなところ？	ここ数年、ゲストハウスという宿泊施設が多くみられるようになりました。ホテルとは異なり見知らぬもの同士で1つの部屋に宿泊したり、トイレやシャワーを共同利用したりするのが特徴です。安価なので外国人の若者もよく利用します。ゲストたちはどんなふうに過ごし、ホストはどう切り盛りしているのでしょうか？	准教授 田保 顕 (学術教員)
6	動物園の成り立ちを知ろう！	レクリエーションの場として馴染み深い動物園が、いつどのように成立し、発展してきたのかを見ていきます。動物園の展示を通して、私たち人間が飼育動物と紡いできた関係性を考えてみましょう。	助教 平 侑子 (学術教員)
7	江戸時代の旅人にきいてみた200年前の観光旅行	日本の旅行史においては、観光現象は明治時代以降のものだとされていますが、江戸時代には既に多くの人々が楽しみを目的とした旅をおこなっていました。この授業では、江戸時代の旅日記やガイドブック、浮世絵などを紐解きながら、当時の旅と現在の観光の相違点や共通点を探っていきます。	助教 谷崎 友紀 (学術教員)
8	C/Aのおしごと	航空会社のC/Aは、どのようなお仕事をしているのでしょうか？ 航空会社に入社してから、どのような訓練を受けて一人前のC/Aになるのでしょうか？ C/Aに関わるトリビアを含めて、楽しく学びます。	教授 安本 幸博 (実務教員)
9	ホテルで働くことの魅力とは	ホテルは多種多様な職業人から成る組織で運営されています。宿泊に係わるスタッフ、宴会やレストランのサービススタッフ、料理人、管理部門の人たち等々、長年のホテルマンとしての経験から、それぞれの仕事内容を具体的に説明し、ホテルで働くことの喜び、働き甲斐を伝えたい。	准教授 小島 英夫 (実務教員)
10	人に会うって素晴らしい－挨拶と接遇（せつぐう）マナーの実践－	COVID19によるパンデック以来、世界のどこでも、自由に人に会うことが制限されるようになりました。これまで内外から多くの観光客を受け入れていた瀬戸内、四国ですが、出かけること、受け入れること自体、今は我慢の時間が続いています。これまで、人に会うことは当たり前でした。しかし、人に会えること、人に会うって素晴らしいと思える今だからこそ、今後自由に会える時のため、美しく感じの良い挨拶のし方、人と接するときの接遇マナーを学び、実践できるように準備しておきましょう。	准教授 堀田 明美 (実務教員)

No	テーマ	内容	教員
11	日本ならではの・四国ならではの・香川ならではの「もてなし」とは	「もてなし」は、源氏物語に出てくる言葉で、日本ならではの和語（漢語ではなく）です。現在言われている「お」をつけた「『お』もてなし」となると、少し意味と対応が違って来るように思います。本来の「もてなし」の意味に立ち返り、歴史的な意味、その考え方の変遷を現在の学説やホスピタリティとの比較など、大きな視点から「もてなし」を考え、日本ならではのもてなしの本質を考えてみましょう。	准教諭 堀田 明美 (実務教員)
12	エアラインビジネスと客室乗務員 (CA) の歴史	航空機を利用した様々な活動の中でも、有償 (ビジネス) として航空機による運送サービスを提供するのが航空会社 (エアライン) です。その中でも有償で人や旅客を運送するエアラインビジネスは、航空運送事業という航空活動に分類されます。サービスにいかにも価値を与えていくかは、時代やニーズによる持続的発展や変化も求められます。そんな中、エアラインで働くキャビンアテンダントの働き方の変化や、サービスの在り方も当然変化します。またもてなしや感情の表し方など、様々な方向から客室乗務員 (CA) の仕事を学んで参りましょう。	准教授 堀田 明美 (実務教員)
13	マナー入門	マナーとは何か。明治以降、日本の礼法は、礼法→修身→作法→礼法→エチケット→マナーと様々な呼び方で変化をつづけました。 感染症・悲惨な戦争が世界を取り巻く中だからこそ、人を分断ではなく、つなぐための潤滑油となる礼節の在り方を、その変化の歴史と共に考えてみましょう。社会・学校・職場・家庭で心得、実践するための倫理・哲学とも言えます。	准教授 堀田 明美 (実務教員)
14	国際儀礼 (プロトコール) を学び実践しましょう	COVID19のパンデミック以来、海外からのインバウンド観光、海外への旅行、そのどちらにも制限がかかっています。このような時だからこそ、国際儀礼 (プロトコール) を学び、今後の楽しい旅に備えましょう。国際儀礼 (プロトコール) は、外務省や外交官、海外赴任・出張、留学のためだけのものではありません。コロナ禍でなければ世界中の誰もが自由にどこでも行き来できる時代、日常のマナーとして当たりまえの振舞いといえます。国際儀礼 (プロトコール) の原則を学び実践しましょう。	准教授 堀田 明美 (実務教員)
15	うどん県の国際化 ～英語が話せなくてもできる国際化とは～	国際化が地域にもたらす活性効果を学ぶ。日本人の常識と海外旅行者の常識を比較し、ダイバーシティとは何かを考え、今後の国際化における重要なポイントを見出す。香川県内の地元住民によるインバウンド客の受け入れ活動などの事例をもとに、国際化の本質とは何かを生徒と一緒に考える。	准教授 石床 涉 (実務教員)
16	「観る」観光から「感じる」観光へ～瀬戸内の宝を見つけ、発信しよう～	生徒自らが地域の素晴らしさに気づき、伝えることの大切さを学ぶ。瀬戸内の事例から、なぜ観光地として注目を集めるようになったのかその経緯を理解する。また、グループワークにより身近にあり観光素材を話し合い発表する。	准教授 石床 涉 (実務教員)
17	地方発 一流ホテルマンへの道	ホテルで仕事をするうえで大切なホスピタリティとは何かを考え、必要な人材像を考察する。地方出身者が国内外のホテルで仕事に就き、お客様から感謝されることでやりがいを見出すまでの経緯を自身の経験をもとに説明する。また、ホテルの現場だけでなく、必要とされるスキルや現場で対応できる人材とはどのようなものを考察する。	准教授 石床 涉 (実務教員)
18	メディア作品から見た瀬戸内の魅力	瀬戸内を舞台にした映画、テレビ、雑誌などのメディア作品をとおり、観る側の心に響くもの、地元の人が気づかない地域の誇るべきものは何かを学ぶ。数々の瀬戸内で撮影された映画などをもとに、メディア制作側と地域住民が一体となったフィルムコミッション事業が地域にもたらす波及効果を検証する。	准教授 石床 涉 (実務教員)
19	「海外から見た瀬戸内」と「瀬戸内から見た海外」	日本と海外の価値観や文化の違いについて考察する。「瀬戸内の観光」などを題材にグループワークにて簡単なSWOT分析をおこない身近な観光資源に気づく時間を持つ。仕事や旅行など様々な目的で来日するインバウンドへの対応の違いや、リスクを明確にし、課題を考察する。	准教授 石床 涉 (実務教員)

※上記授業は一例です。上記以外でもお気軽にご相談ください。